

教育分野

4 市民が自ら学び豊かな心を育むまちをつくる

1 子どもの生きる力を育むまちをつくる

1 幼児・学校教育の充実

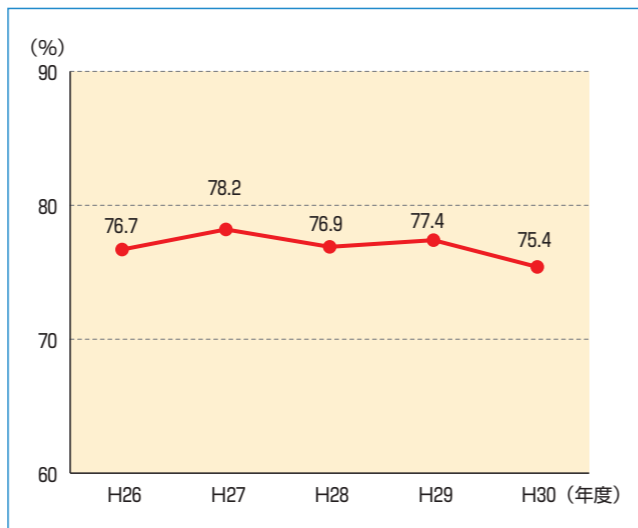
2 児童・生徒の健全な心身の育成

3 中等教育学校教育の充実

現状と課題

- ① 幼稚園・学校では、教育の質を一層高め、新しい時代に求められる資質・能力の育成を図る必要があります。さらに、「社会に開かれた教育課程」の実現が重視され、地域や家庭などの社会と学校とが連携・協働し、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創ることが求められています。
- ② 授業改善などの推進を図り、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力・人間性の涵養が求められています。また、豊かな心で人と進んで関わることのできる子どもの育成、一人ひとりの教育的ニーズに応じた取組の充実が求められています。
- ③ 各幼稚園の特色を生かして創意工夫を重ね、家庭や地域社会と協力して、教育活動の更なる充実が求められています。また、幼稚園と小学校が連携し円滑な接続を図ること、保護者のニーズに応じた子育て支援や預かり保育を充実することも求められています。

将来の夢や希望の実現に向け努力している児童・生徒の割合



施策の基本方針

- ① 特色ある学校づくりを推進し、地域に根ざした幼児・学校教育を創造します。
- ② 教育内容の充実を図り、グローバルな広い視野と高い志をもち、よりよい未来を創り出す子どもを育てます。
- ③ 幼児教育の充実を図り、小学校以降の生活や学習の基盤となる力を育てます。

※ 伊勢崎市独自の教育構想：確かな学力の向上、豊かな心、地域の教育力の活用について、学校教育で重点を置く共通の方向性や施策を示した構想。
 ※ 学府制：学校と地域が組織的に連携・協働し、未来の伊勢崎を切り拓く人づくりを円滑かつ効果的に行うための仕組み。
 ※ いせさき教育アンバサダー：本市出身または本市にゆかりがあり、様々な分野で活躍し、子どもたちのために特別授業などを行っている人。
 ※ カリキュラムパートナー：本市が協定を結んでいる企業や大学が有する人的・物的教育資源。

施策の展開

- ① 特色ある学校づくりの推進
 - 伊勢崎市独自の教育構想[※]の策定・推進
 - 学府制[※]による子どもの未来を地域とともに育てる教育の推進
 - いせさき教育アンバサダー[※]やカリキュラムパートナー[※]との連携の充実
- ② 教育内容の充実
 - 「なぜ?」「なるほど!」「もっとやってみよう!!」を大切にされた授業による確かな学力の向上
 - 小中9年間の一貫指導による英語コミュニケーション能力の育成
 - 「ほめる・認める・励ます」支援による豊かな心の育成
 - 子ども一人ひとりの障害や特性に配慮した特別支援教育の充実
- ③ 幼児教育の充実
 - 様々な人との交流や体験活動を重視した幼児教育の展開
 - 幼稚園・保育所・認定こども園・小学校の連携の充実
 - 地域の実態や保護者のニーズを踏まえた子育て支援の充実



まちづくりの指標（成果指標）

指標名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和6年度)	解説・算出方法など
将来の夢や希望の実現に向け努力している児童・生徒の割合	75.4%	85.0%	生活・学習状況調査で「努力している」「どちらかという努力している」と回答した割合の小学校1年生から中学校3年生までの平均
英語の学習が楽しいと感じる児童・生徒の割合	児童：90.5% 生徒：83.3%	児童：95.0% 生徒：85.0%	英語アンケートで「楽しい」と回答した児童と生徒の割合
幼稚園が楽しいと感じている幼児の割合	99.8%	100%	市立幼稚園の幼児、保護者を対象としたアンケートで「楽しい」と回答した割合

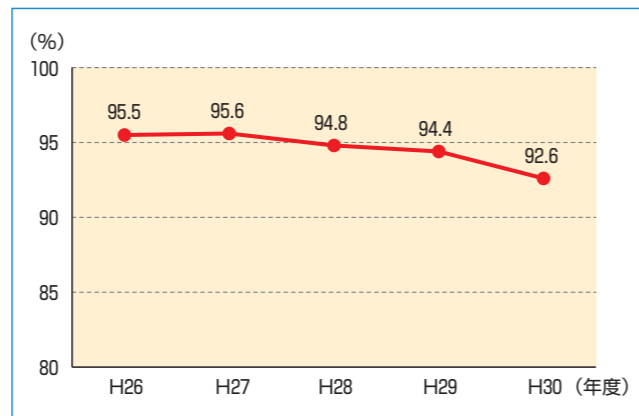
関連計画

教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）

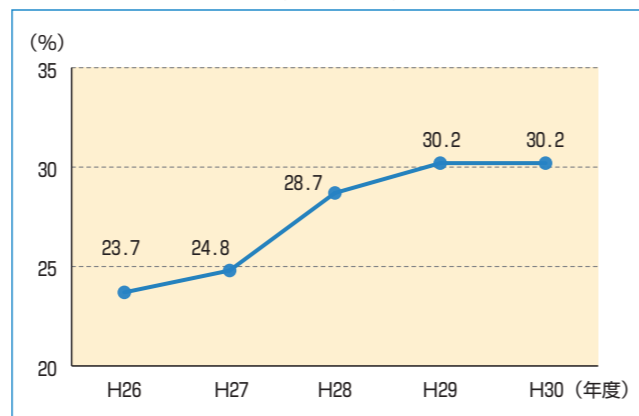
現状と課題

- 生活習慣が乱れ、学習意欲や体力、気力が低下している児童・生徒について社会問題化しています。学校生活の基盤である児童・生徒の基本的な生活習慣を確立するため、関係機関と連携し、保護者への啓発活動を推進していく必要があります。
- 学校給食に対する市民の期待や関心が高まっています。市内産食材^{*}の使用や献立内容の充実を図り、安心・安全な給食を安定して提供することが求められています。
- 児童・生徒は、日常生活の中で災害、交通事故、不審者などの様々な危険にさらされています。児童・生徒や保護者が安心できる環境の整備とともに、自らの身を守ることでできる危険回避能力を育成することが求められています。

児童・生徒の朝食摂取率



市内産食材の使用量比率（野菜・芋類）



施策の基本方針

- 健康教育の充実を図り、生き生きと学校生活を送ることができる児童・生徒の育成を目指します。
- 衛生管理の徹底を図り、安心・安全で充実した学校給食の安定した提供を目指します。
- 安全対策の強化を図り、児童・生徒の安全な学校生活の確保を目指します。

^{*} 市内産食材：伊勢崎市内で収穫された食材。米・きゅうり・小松菜・にらなど。

施策の展開

- 健康教育の充実
 - 保健教育の充実
 - 食育指導の充実
 - 医師会・歯科医師会・薬剤師会や関係機関との連携強化
 - 基本的な生活習慣の確立に向けた保護者への啓発推進
- 学校給食の充実
 - 積極的な市内産食材の使用
 - 行事食^{*}や郷土料理^{*}などの献立の充実
 - 食材、食品の安全管理の充実
 - 食物アレルギーなどの相談体制の整備
- 安全対策の充実
 - 学校・保護者・地域や関係機関と連携した通学路の安全対策
 - 交通安全指導の充実
 - 災害対応マニュアルなどの充実
 - 熱中症予防対策の徹底



まちづくりの指標（成果指標）

指標名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和6年度)	解説・算出方法など
児童・生徒の朝食摂取率	92.6%	96.0%	小学校6年生、中学校3年生を対象とした調査で朝食を食べて登校した児童・生徒の割合
市内産食材の使用量比率（野菜・芋類）	30.2%	35.0%	学校給食調理場で使用される食材のうち、市内産食材の占める割合

関連計画

教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）

^{*} 行事食：季節ごとの行事やお祝いの日に食べる特別な料理。端午の節句・お月見・冬至など。

^{*} 郷土料理：地域の産物を活用して昔から食べられてきた料理。群馬県内では、おつきりこみ・焼きまんじゅう・すいとんなど。

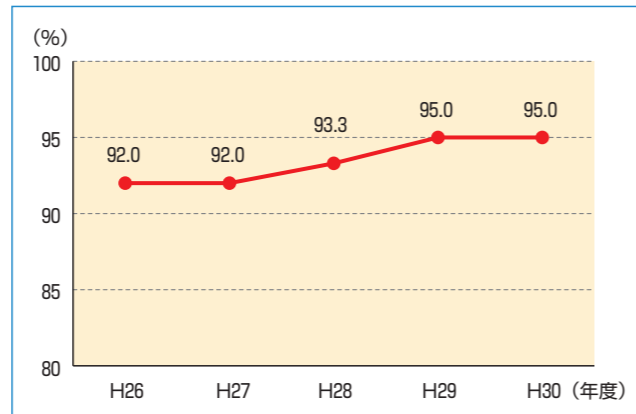
4-1-3 子どもの生きる力を育むまちをつくる 中等教育学校教育の充実

市民が自ら学び豊かな心を育むまちをつくる

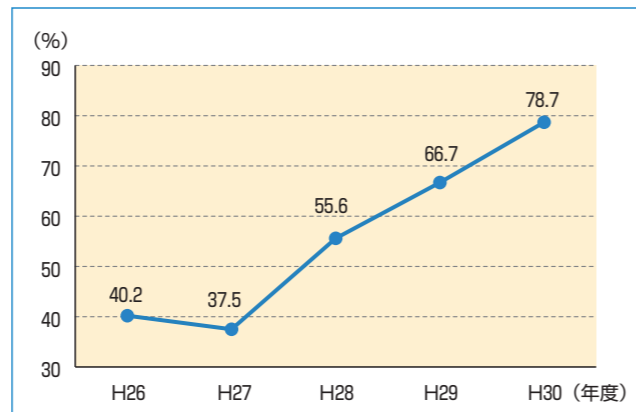
現状と課題

- ① 四ツ葉学園中等教育学校では、中高一貫教育の特徴を生かした、計画的、継続的な教育に取り組んでいます。6年間の安定した環境で、生徒の多様な個性の伸長や優れた才能の発見に努め、確かな学力と豊かな人間性の育成を重視し、生徒一人ひとりの進路の実現を目指した指導が求められています。
- ② 世界、日本、地域が日々変化していく中、四ツ葉学園中等教育学校では、グローバル社会への対応力を備え、国際的視野をもって地域社会に主体的に貢献できる人材を育成していくことが求められています。
- ③ 四ツ葉学園中等教育学校は、生徒だけでなく、地域が誇れる学校になることを目指しています。先進的な教育を市全体の学校教育に生かし、地域へも貢献していくことが求められています。

■ 特色ある教育活動の満足度



■ 中等3年生の英語力の達成度



※H29・30は4技能検定（読む・聞く・書く・話す）の結果から算出しました。H26～28は3技能検定（読む・聞く・書く）のため参考値です。

施策の基本方針

- ① 中高一貫教育の特徴を生かし、知性と道徳性を身に付けた教養人を育成します。
- ② 特色ある教育を推進し、地域の学校や企業、大学などと連携することにより、地域社会に貢献できるグローバル人材の育成を図るとともに、その成果を共有します。
- ③ 中等教育学校として先進的な教育を推進し、その成果を他校と共有して市の教育水準の向上に貢献します。

施策の展開

- ① 6年間一貫教育の充実
 - 3段階の学習ステージによる発達段階に応じた指導
 - 計画的で継続的な教育の充実
 - サポートリーダー制^{*}の活用
- ② 特色ある教育の推進
 - スキルアッププログラム^{*}・課外学習の充実
 - 生徒の夢の実現を図るキャリア教育の充実
 - 地域や世界で活躍できるグローバル人材の育成
 - 先進的な英語教育の推進
- ③ 地域全体の学校教育への貢献
 - 先進的な教育の市内小中学校への波及
 - 小学生の進路選択肢の拡大
 - 海外大学などへの進学システムの構築と支援



まちづくりの指標（成果指標）

指標名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和6年度)	解説・算出方法など
特色ある教育活動の満足度	95.0%	100%	学校で実施する学校評価アンケートで特色ある教育活動に「満足している」と回答した生徒の割合
中等3年生の英語力の達成度	78.7%	80.0%	外国語の国際標準規格CEFR（セファール） [*] のA2以上に相当する生徒の割合

関連計画

教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）

※ サポートリーダー制：上級生が下級生の学習・生活・進路面などでのアドバイスを行う、生徒が生徒を育てる教育活動。
 ※ スキルアッププログラム：授業の他に生徒個々の学習を補充・深化したり、各種検定に備えて実力を養成するための講座。
 ※ CEFR（セファール）：外国語学習者の習得状況を示す際に、文部科学省が利用を推奨している世界共通の6段階からなる指標。

生涯学習・スポーツ・文化分野

4 市民が自ら学び豊かな心を育むまちをつくる

2 生涯にわたり心身を育むまちをつくる

1 生涯学習の振興

2 青少年の健全育成

3 文化財の保存活用と伝統文化の継承

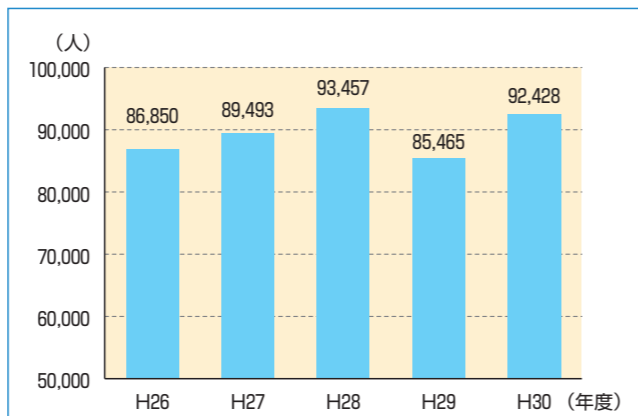
4 教育施設の充実

5 スポーツの推進

現状と課題

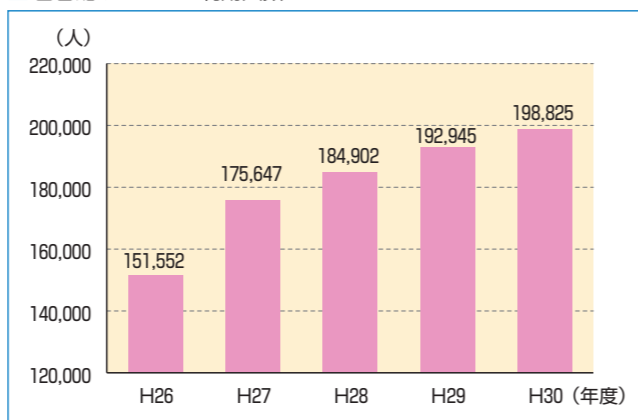
- ① 生活形態や価値観が多様化する中、様々な生きがいを求める意識が高まっています。市民の多彩な学習意欲に応えるため、職員出前講座やまなびい先生[※]など、幅広い学習の機会と場の提供が求められています。
- ② 多様な価値観のもと、生活の質を見直し、心の豊かさを求める意識が高まっています。図書館は幅広い資料の提供を基本として、正しい知識と正確な情報を融合させ、この時代を生き抜く力を培う場として機能することが求められています。
- ③ 本市では、様々な分野で市民の自主的な文化活動が行われていますが、更に高齢化の進展に伴い、退職後の生きがいとしての芸術・文化活動に対する関心が高まっています。芸術・文化活動への支援体制の充実や情報の発信などの対応が求められています。

生涯学習関連事業への参加者数



※H29から読書の街いせさき推進事業の参加者数は、図書館サービスの利用人数に計上しています。

図書館サービスの利用人数



施策の基本方針

- ① 多彩な学習機会を提供することにより、主体的で意欲のある市民の学習活動の充実を図ります。
- ② 市民が学び活動する場として、幅広い魅力ある資料、情報源を蓄え、ライフステージに合わせた各種事業を展開し、豊かな人生を歩む読書の街いせさを推進します。
- ③ 芸術・文化活動に触れる機会を充実させることにより、市民の主体的な活動を支援していきます。

※ まなびい先生：専門的な知識、技能、経験を持つ人がボランティア登録し、教え合いや学びを通して、地域づくりや仲間づくりを進めていく生涯学習支援ボランティア。

施策の展開

- ① 多彩な学習機会の充実
 - 「1行政区1楽習[※]」の推進
 - 学校・家庭・地域が協働する公民館活動の拡充
 - まゆドームなどでの子どもへの体験学習機会の提供
 - 公開講座など大学との連携による高度な学習機会の提供
- ② 読書の街いせさきの推進
 - 本と出会う機会の充実と学びの提供
 - 市民との協働による図書館活動の充実
 - ライフステージに応じた図書館サービスの充実
 - 学校と連携した学習活動の充実
- ③ 芸術・文化活動の活性化の促進
 - 公共施設を活用したギャラリーの設置
 - 芸術・文化に触れる機会の充実
 - 文化施設の適正な維持管理の推進



まちづくりの指標（成果指標）

指標名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和6年度)	解説・算出方法など
生涯学習関連事業への参加者数	92,428人	94,000人	まなびい先生や出前講座及び体験活動など生涯学習関連事業に参加した人数
公民館自主事業の参加者数	35,749人	42,000人	全公民館で実施される自主事業への参加者の総数
図書館サービスの利用人数	198,825人	200,000人	図書館サービスの利用人数、各種講座への参加人数

関連計画

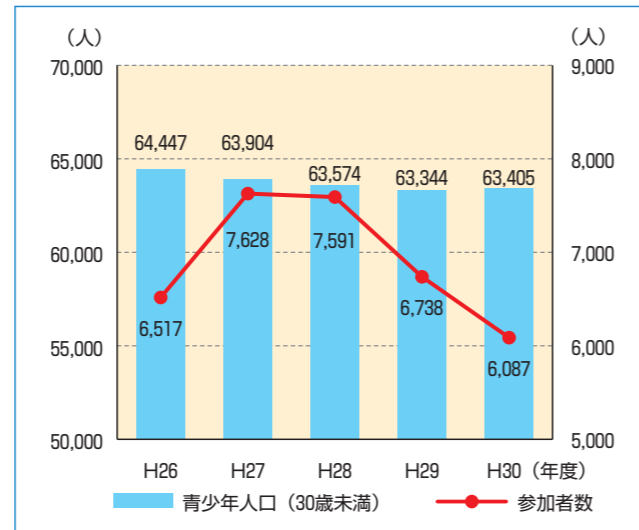
教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）

※ 1行政区1楽習：各行政区の学習活動を支援する事業。楽しく学ぶことを目的に「楽」習としている。

現状と課題

- ① 青少年*に対するインターネットを介した有害情報の氾濫が及ぼす問題が深刻化しています。地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組むとともに、健全な社会環境づくりが重要となっています。
- ② ニートやひきこもり、不登校など、社会での青少年の自立の遅れが顕在化しています。次代の担い手として主体的に行動ができる青少年を育成するため、関係団体との連携強化と充実した活動を推進する必要があります。
- ③ 様々な悩みや困難を抱える青少年や保護者などが増加しています。相談しやすい体制の整備や関係機関との連携による解決に向けた取組が求められています。

■ 青少年人口と各種活動、研修会などへの参加者数



施策の基本方針

- ① 家庭、地域、学校などとの相互の連携を強化し、地域ぐるみで青少年育成と環境づくりに取り組みます。
- ② 青少年関係団体の充実を図り、青少年の成長の糧となる活動機会を提供し、青少年の自立を促します。
- ③ 悩みを抱える青少年、保護者などに対する相談体制を充実し、適切な指導や援助を行います。

* 青少年：ここでは、0歳からおおむね30歳未満までの者をさす。

施策の展開

- ① 地域ぐるみの健全育成と環境づくり
 - 社会環境の浄化活動、非行防止の強化
 - 地域ぐるみの青少年育成環境の整備
 - 青少年健全育成、非行防止に関する広報・啓発活動
- ② 次代を担う青少年の育成
 - 青少年各種団体などとの連携強化と活動の促進
 - 青少年が自ら学習する意欲と能力を養う機会の提供
 - 研修会や体験活動を通じた人材の育成
- ③ 青少年相談関係機関との連携協力
 - 気軽に相談できる電話や面接による相談体制の充実
 - 関係機関との連携による適切な相談・支援体制の推進



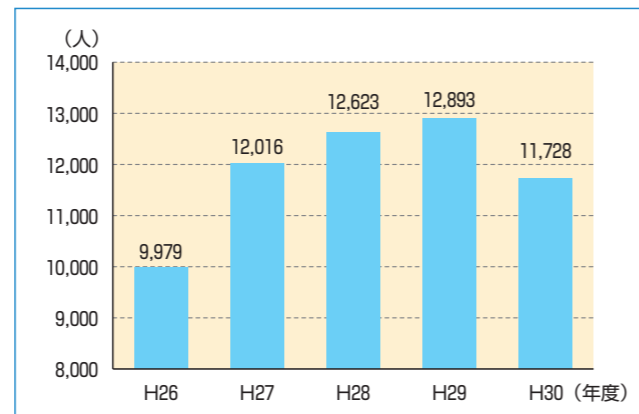
まちづくりの指標 (成果指標)

指標名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和6年度)	解説・算出方法など
各種活動、研修会などへの参加者数	6,087人	6,800人	子ども会育成会事業、青少年団体事業、自然体験教室、市主催各種事業に参加した人数

現状と課題

- 生涯学習への興味や意欲の高まりとともに、歴史的事象や文化に対する関心が増しています。地域の文化財の調査研究を推進し、市民への情報発信に努めるとともに、後世に伝えていく必要があります。
- 地域の特色ある歴史や文化の共有は、ふるさと意識の醸成に重要です。文化財の保存活用に努め、市民が文化財に触れる機会を増やすよう積極的に取り組む必要があります。
- 地域のまつりなどで伝統芸能などを活用した文化活動が行われています。民俗芸能などの伝統文化を継承する市民意識を高め、その保存と次世代への伝承活動を支援することが求められています。

調査説明会・講演会などの参加者数



施策の基本方針

- 文化財の調査研究と情報提供に努め、地域の文化財を後世に伝えていきます。
- 文化財の保存活用に努め、市民が地域の文化財に触れる機会を増やし、ふるさと意識を醸成します。
- 伝統芸能などの保存と継承を支援し、地域の伝統文化を次世代へ継承します。

※ 史跡田島弥平旧宅：蚕の飼育法「清涼育」を完成させた田島弥平が、文久3年（1863年）に建築し近代養蚕農家の原型となった建物。（国指定史跡）（世界遺産）

施策の展開

- 文化財の調査研究と情報発信
 - 歴史的建造物や遺跡などの調査研究
 - 歴史資料の調査研究
 - 有形・無形民俗文化財[※]の調査研究
 - 赤堀歴史民俗資料館などでの情報発信
- 文化財の保存活用
 - 史跡田島弥平旧宅[※]の保存活用と環境整備
 - 史跡女堀[※]と史跡十三宝塚遺跡[※]の保存活用
 - 史跡上野国佐位郡正倉跡[※]の保存活用
 - 解説ボランティアの育成支援
- 伝統芸能などの保存と継承
 - 有形・無形民俗文化財の保存と伝承の支援



まちづくりの指標（成果指標）

指標名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和6年度)	解説・算出方法など
調査説明会・講演会などの参加者数	11,728人	13,000人	文化財に関する調査説明会、講演会などに参加した人数

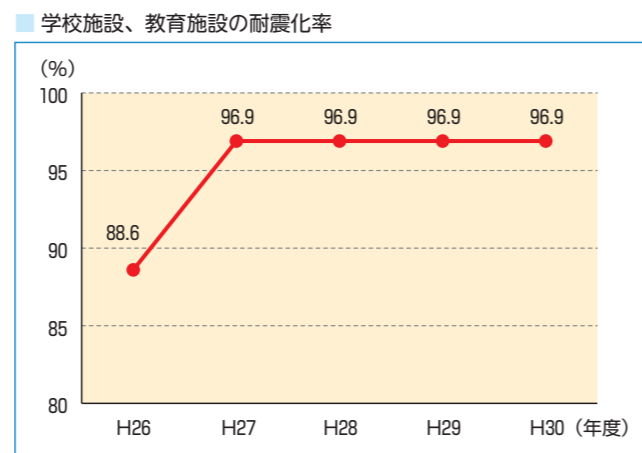
関連計画

教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）

※ 有形・無形民俗文化財：衣食住、生業、年中行事などに関する風俗慣習、民俗芸能やこれらに用いられる衣服、器具、家屋などの文化財。
 ※ 史跡女堀：12世紀中頃に開削された農業用水路跡で総延長が約13kmに及ぶ。工事が中断され、未完成のまま残された堀。（国指定史跡）
 ※ 史跡十三宝塚遺跡：奈良・平安時代の寺院跡で、回廊状の中に仏殿や塔が建立されたことが分かり、上野国分寺創建期の瓦や奈良三彩陶器などが発見された遺跡。（国指定史跡）
 ※ 史跡上野国佐位郡正倉跡：施蓮小学校校庭で八角形倉庫跡が発見された奈良・平安時代の古代佐位郡の役所跡。（国指定史跡）

現状と課題

- ① 学校施設*では、安心・安全な学校づくりのため、計画的な整備を進めています。しかしながら、学校施設の中には、老朽化が課題となっているものもあります。子どもが安全で快適に学校生活を送れる環境づくりが求められています。
- ② 教育施設*の中には、老朽化や耐震化が課題となっているものがあります。教育施設は、多くの市民が利用することから、計画的な長寿命化や耐震化などにより安全性を確保するとともに、快適な環境を整備することが求められています。



施策の基本方針

- ① 学校施設を計画的に整備し、子どもが安全で快適に学べる環境を整えます。
- ② 教育施設を計画的に整備し、利用者が安心して快適に利用できる環境を整えます。

* 学校施設：ここでは、幼稚園、小・中学校、中等教育学校、学校給食調理場をさす。

* 教育施設：ここでは、図書館、公民館、資料館、生涯学習課が管理する地区集会所など、教育委員会が管理する学校施設以外の施設をさす。

施策の展開

- ① 学校施設の整備・充実
 - 計画的な整備の推進
 - 計画的な長寿命化の推進
 - 学校の情報教育機器の整備・充実
 - バリアフリー化の推進
- ② 教育施設の整備・充実
 - 計画的な整備の推進
 - 計画的な長寿命化の推進
 - バリアフリー化の推進



まちづくりの指標（成果指標）

指標名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和6年度)	解説・算出方法など
管理諸室の空調機を更新した学校数	5校	23校	管理諸室の空調機を更新が必要な小中学校(27校)のうち、更新工事が実施された学校の数
学校施設、教育施設の耐震化率	96.9%	100%	国が定めた耐震基準を満たした学校施設と教育施設の割合

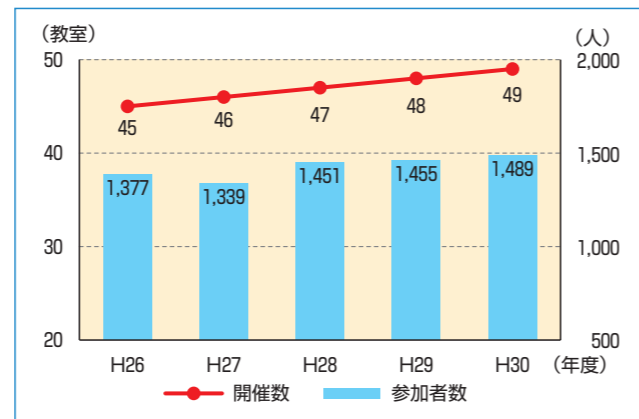
関連計画

教育振興基本計画（令和2年度～令和6年度）

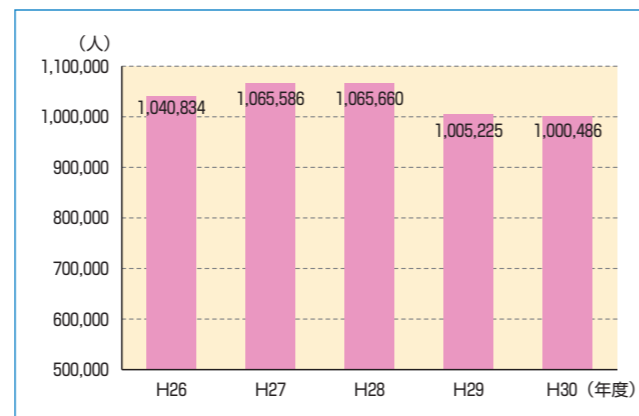
現状と課題

- 健康維持・増進への関心の高まりなどにより、生涯スポーツの重要性が増しています。市民が自分にあったレクリエーションスポーツを生涯にわたり楽しめるよう、機会の提供や啓発に努めていく必要があります。
- 子どもから大人まで様々な競技スポーツが浸透し、本市でも各種大会の開催や選手の派遣に対する支援を行っています。個人や団体が、関東大会や全国大会などで優秀な成績を収めるためには、各種目の競技力の向上や指導者の養成が必要とされています。
- あらゆる世代の市民が安心して快適に施設を利用できるように、定期的な点検や修繕、老朽化した施設の計画的な改修や整備を進めていくことが必要です。

■ スポーツ教室の開催数、参加者数



■ スポーツ施設の利用者数



施策の基本方針

- 生涯スポーツを推進し、市民のだれもが生涯にわたり、年齢、体力、目的に応じて、レクリエーションスポーツを楽しめる環境づくりに取り組みます。
- 競技スポーツを推進し、競技の普及、競技者人口の増加や競技力の向上を支える環境づくりに努めます。
- スポーツ施設の整備を推進し、あらゆる世代が気軽にスポーツに参加できる環境を提供します。

施策の展開

- 生涯スポーツの推進
 - 1市民1スポーツ[※]の推進
 - 市民スポーツの日[※]の普及
 - 市民レクリエーションスポーツ祭[※]の充実
 - スポーツ推進委員との連携の充実
- 競技スポーツの推進
 - スポーツ教室の充実
 - 市民総合スポーツ大会の充実
 - (一財)伊勢崎市スポーツ協会、競技団体などとの連携・支援
 - 講習会、研修会などによる指導者の養成・支援
- スポーツ環境の充実
 - 安心・安全な施設の計画的な整備



まちづくりの指標 (成果指標)

指標名	現状値 (平成30年度)	目標値 (令和6年度)	解説・算出方法など
スポーツ教室の参加者数	1,489人	1,600人	テニス教室、弓道教室、卓球教室など、スポーツ教室に参加した人数
市主催スポーツ事業の参加者数	13,749人	19,000人	市民スポーツの日、市民レクリエーションスポーツ祭、市民総合スポーツ大会、シティマラソンに参加した人数
スポーツ施設の利用者数	1,000,486人	1,070,000人	体育館、野球場などのスポーツ施設を利用した人数

関連計画

スポーツ推進計画 (令和2年度～令和11年度)

※ 1市民1スポーツ：心と体の健康づくりのために、市民一人ひとりが一種類以上のスポーツを楽しむことを目指した取組。
 ※ 市民スポーツの日：市のスポーツ施設の一部を無料開放している日。毎月第一日曜日。
 ※ 市民レクリエーションスポーツ祭：子どもから高齢者まで、それぞれの年齢や体力に応じて生涯スポーツの楽しさにふれることを目的に開催される大会。